

令和8年度 甲府市保健所運営協議会議事録

1 会議日程

- ・日時：令和8年5月26日（火）午後7時～午後8時
- ・場所：甲府市役所南庁舎（健康支援センター）2号館2階 大会議室

2 出席者

【委員】

森口武史委員、清水敬太委員（赤澤幸生委員代理）、功刀浩文委員（長谷川達郎委員代理）、大木善之助委員（佐藤弥委員代理）、星野和實委員、大森雄介委員（武井啓一委員代理）、植松俊彦委員、輿水佳哉委員、遠藤みどり委員、小澤俊彦委員、深澤武彦委員（古屋育男委員代理）、志田昌子委員、越水眞澄委員、泉宗美恵委員
（欠席：市川啓太委員、加賀美真人委員、保坂保委員、山本秀樹委員）

【事務局】

小島保健所長、渡辺生活衛生室長兼精神保健課長、堀内保健衛生総室長兼総務課長、望月医務感染症課長、芦澤衛生薬務課長、羽鳥健康政策課長、浅川地域保健課長、後藤母子健康課長、小澤課長補佐、今村主任、尾野主任、内田主任

3 会議次第

- 1 開会
- 2 甲府市保健所長あいさつ
- 3 委員及び職員紹介
- 4 会長あいさつ
- 5 議事
 - (1) 甲府市保健所運営協議会について
 - (2) 令和8年度 甲府市保健所（健康支援センター）の主な事業内容について
 - (3) 関係機関からの情報提供について
 - (4) その他
- 6 閉会

4 議事の要旨

議事（1）甲府市保健所運営協議会について

【事務局】

（甲府市保健所運営協議会について説明）

【議長】

以上で議事（1）についての説明は終わりました。

ご意見、質問がありましたらお願いします。

(質疑なし)

議事（２）令和８年度甲府市保健所（健康支援センター）の主な事業内容について

【事務局】

(令和８年度甲府市保健所（健康支援センター）の主な事業内容について説明)

【議長】

以上で議事（２）についての説明は終わりました。

ご意見、質問がありましたらお願いします。

【議長】

出前講座が幾つかの目的で開かれていると思うが、健康危機管理体制の強化に関して、例年何回開催されていて、今年は何回開催される予定か、市民はどのくらい参加しているか、教えていただきたい。

【事務局】

感染症の予防に関する出前講座を昨年度は９回実施しており、住民の集まり、障がい・福祉・児童施設、医療機関を対象に実施しております。また、エイズ等の講習会は高校・専門学校に出向いて４回実施しており、受講者は、学校で５００人程でした。さらに今年は社会福祉施設等への感染症対応、アクションカードのひな形を作成したので、それらの普及啓発にかかる出前講座の実施を検討している。

【議長】

出前講座のメニューがあり、市民にお知らせをして、選んでもらって講師を派遣する形か。

【事務局】

生涯学習課の市民全体の出前講座として実施している。各種施設等の説明会時にも啓発を行っております。また、学校向けのエイズ等の講習会については、各学校に年度当初、通知し、申込みを受け付けている。

【議長】

参加者へのアンケートは取っているのか。

【事務局】

全ての出前講座ではないが、学校向け、社会福祉施設向けの講座で、アンケートを取って

いる。学校向けのもは出前講座の前後で、理解が進んだかどうかについて評価や感想を聞いている。

【A委員】

健康づくりの推進において、健康アプリは動機付けになっている。インセンティブが与えられるような仕掛けになっているのか。他では可視化しながら動機づけをしているようなアプリもある。甲府市のアプリの狙いは具体的にどのようなイメージか。

【事務局】

年3期にわけてポイントを300円とか電子マネーに交換するインセンティブを図り、より多くの人に参加してもらえるようにしている。健康アプリは令和5年11月から開始したが、現在登録者は2,439人となっている。継続してやってもらうことが課題となっていることから通知を送付するなど、継続して参加してもらえるような新たな仕掛けづくりを行っているが、ウォーキング大会のように実施すると一気に利用が増えるが、その後が続かないので、継続して使っていただける取り組みを進めていく。

【A委員】

働き盛りだけでなくフレイル予防の健康支援としてはどのような取り組みをおこなっているのか。

【事務局】

高齢者のフレイル予防としては、健康アプリの利用は多くないが、健康づくり同窓会、健康談話室、甲府市の歌体操5種類の普及啓発を通じ、高齢者を含めて健康づくりの普及啓発を図っている。

【A委員】

私が、健康アプリを使うきっかけになったのは、80代のご老人が紹介してくれたから。高齢者だからといって使えないことはない。幅広い年齢層で使えると良い。

【事務局】

市民を対象としたフレイル予防事業として、食育係の「おいし食(く)・楽しく・元気塾」の健康教室、健康づくりでも出前講座、「歯つらつ歯つぴーキャラバン」を実施している。また地域組織との連携では、食生活改善推進委員会が高齢者食育元気会を実施していたり、地区事業において握力チェックをしながらのフレイル予防に取り組んでおり、また、甲府市愛育連合会でも、ふれあいくらぶでの機能訓練事業など様々な取り組みを実施している。

【議長】 ネーミングが独創的ですが、どうやって決めているのか。

【事務局】

職員が試行錯誤しながら、興味関心を持っていただけるよう工夫している。

【議長】

地域保健課と健康政策課、それぞれの事業で重なっている部分があるはずだが、例えば健康アプリも年齢ごとの係数を決め、幅広い年齢層を対象にしながらも、狙いの層にアプローチできる仕掛けづくりの検討をしてみたらどうだろうか。アプリの改修には費用が掛かるが、例えば若い人とお年寄りの歩ける距離の違いについて年齢ごとのクラス分けによる評価があっても良いと思う。

【事務局】

年齢の区分によって目標値は変更していないが、いただいたご意見は、今後検討していきたい。ウォーキング大会では個人戦や団体戦もあります。また、マイナポータルとの連携では将来的にどのような影響があるかシミュレーションが出来る機能を実装しており、将来予測によって行動変容につなげられるような仕組みづくりをしている。

【事務局】

地域保健課の教室参加でも健康アプリのポイントが付くようになっている。また、アプリの機能として、プッシュ通知による周知等の依頼をするなど連携をしている。実施する事業により対象者を絞る場合には、そのように対象者選択をして発信するなどの対応もしている。

【議長】

元々健康意識が高い人だけでなく、運動が苦手な人も去年よりどれくらい伸びたか、どの程度継続したか等も評価して前向きに取り組めると良い。

【B委員】

学校保健委員会で子宮頸がんワクチンのことが問題となっているが、連携はされているか。

【事務局】

子宮頸がんワクチンの接種について、現在は学校保健委員会との連携は行っていないが、個別通知を中学1年生、高校1年生に加え、今年度から中学2年生にも通知を送る。加えて、市医師会にも協力していただき、継続した呼びかけや相談に対応してもらっている。

【事務局】

山梨県は、子宮頸がんワクチンの接種率が全国で下から2番目ということになっている。

私も学校保健委員会に出席した時に、出前講座の中で子宮頸がんワクチンについてもできると話した。性教育をメインに出すのではなく、性感染症もしくはがん教育としての周知も考えている。

【C委員】

学校の先生や知識が薄い方の関わりによって、ワクチン接種を辞めてしまった方がいた。生徒対象だけでなく学校の先生へ理解を深めてもらう必要もある。他機関と連携して充実した講座を実施してもらいたい。

【議長】

山梨県の接種率が下から2番目という事実に衝撃を受ける。ワクチンについて安全性に懸念を持たれ、ネガティブキャンペーンがはられて、接種率は世界各国に比べると日本が著しく低いなかであるが、日本国内で同じスタートのなかでこの地域が低いのは問題がある。ワクチンだけでなく、サイエンスリテラシーの出前講座を広い世代に出来ると良い。例えば医師会や大学病院等、中庸な講師が出る仕組みを担保した上で、誤情報の典型例等を出しながら、一般の方が接する情報のどこが誤りなのかをアカデミックな視点で解説する取り組みを実施しても良いのではないか。

【D委員】

子宮頸がんワクチンの対応について、多方面からアプローチするために国でも予算が取られている。予算がついているので、市医師会からも市の学事課と協議している。市医師会もワクチンの接種勧奨をするための準備ができていますので、市としてもぜひ動いてほしい。

【議長】

接種勧奨については、委員の中で反対する者はいないと思う。可能な限りの啓発をしてもらいたい。

【E委員】

自然に健康になれる食環境づくりの推進について、若者世代及び働き盛り世代の食の乱れに対して事業を組み立てていることや若者に働きかけていくことは重要だと思う。そのことで、具体的な若者へのアプローチ方法を伺いたい。

【事務局】

生活習慣病は積み重ねであり、若者世代からアプローチするのが効果的だが、こういった形での普及啓発ができるかを考えた取組の一つが若い人にも認知度が高いクックパッドのレシピ配信を行っており、食育の日を目安に旬の野菜を使用したレシピを公開している。加えて、SNSを使用して啓発やモデル事業としてスーパーを会場としたベジチェッ

クによる計測を実施している。ベジチェックには、即時フィードバックが出来る強みがあることから、今年度は事業を広げていきながら若い世代の啓発へとつなげたい。

【E委員】

大学との連携で学生への普及啓発をしても良い。若者世代から、さらに若い世代、小・中学生につなげ、食の乱れについて学校保健との連携についても検討してもらいたい。

【事務局】

学生へのアプローチや活用については、食育推進協議会の中でも話題として挙がっているで、今後協議会の動きも併せ、また相談させてほしい。思春期の出前講座や母子保健課では味覚教育も実施している。課をまたいで連携しながら若者世代に対して普及啓発を実施していきたい。

【D委員】

市医師会としては、市の事業として学校医・救急医療・予防接種・健診事業等に全面的に協力している。そんな中、医師会に入らない開業医の先生が増えており、医師会ですべての事業を覆いきれなくなる。市の事業等に協力してもらいたいということを診療所開設の許可の義務として入れても良いのではないかと。救急医療・在宅当番等を医師会に入らない先生も担う仕組みづくりを検討してほしい。

【事務局】

開設については届出を受けて許可を出すこととなっており、医療法に基づいての許可となるため、甲府市独自で内容を付加することはできないが、他県の取り組みを確認し、お声掛けの方法については検討していきたい。

【E委員】

母子健康課の事業について、歯周疾患の影響として低出生体重児等の相等についても言われている。助産師、保健師などの看護職の連携によって、母子保健の活動が積極的に行われていると思っている。女性の健康に関して相談事業もされているが、どのような取り組み、件数があるのか。更に発展させていくために新たな取り組みや対策があるのか教えてほしい。また、歯科と連携し、低出生体重児発生割合が少なくなる取り組みについても、具体的な対策が可視化できるように説明してほしい。

【事務局】

女性特有の悩みについて、年間で500件近くの相談がある。うち不妊治療の関係の件数が伸びている。また、避妊・中絶・健康状態の相談が多い。今後の取り組みとしては、国で進めているプレコンセプションケア、性別を問わず、適切な時期に、性や健康に関する知識を持ってもらうことを市としても進めていきたい。具体的な取り組みについては今

年度事業を検討していきたい。

【事務局】

先ほどの歯周疾患の影響という話について、成人歯周疾患健診は全国的には対象を40歳以上の節目にしている傾向が多いが、甲府市では幅広く受けられることが特色で、19歳以上で受けられるが、妊婦は19歳以下でも受けられる体制があり、妊娠届出時に案内し対応している。また、女性の健康づくりとして、なでしこ健診を実施し、相談機能を持たせている。母子保健の専門職や歯科衛生士へ相談できるブースを設けるなかで、年2回、取り組んでいる。

【F委員】

動物愛護について、子猫の譲渡に関して、ガバメントクラウドファンディングの実施とはどのような内容なのか。ふるさと納税の活用ということか。

【事務局】

子猫の譲渡の取り組みとして譲渡ボランティアの協力や譲渡会を実施している。ガバメントクラウドファンディングとしては、譲渡ボランティアに支援品を渡すなどの原資としている。他にもコンテナハウス等も設置して、ボランティアさんをお願いする前の一時保護の時に駆虫やワクチン接種をしており、薬やワクチンの費用として活用している。市が実施しているガバメントクラウドファンディングはふるさと納税と同じような扱いになっており、寄付者に返礼品はないが寄附控除がある。

【議長】

ガバメントクラウドファンディングはどのくらい集まるのか。甲府市在住者でも寄付はできるか。

【事務局】

達成目標金額は100万円で、少し超えています。クラウドファンディングは10月から翌年の1月7日までの約3か月間実施しました。開始前に、広報やホームページ、LINEで周知し募集を行っています。市内在住者でも寄付は可能であり、控除も受けられる制度となっています。

【C委員】

大体何人くらい応募しているのか。

【事務局】

令和7年度は、100万円を目標に101万8,000円が集まり、支援者は62名。うち市内の方が41名、市外が21名となっています。

【C委員】

ガバメントクラウドファンディングの寄付の使い道は、野良猫が産んだ子猫に限っているのか。

【事務局】

保健所に引き渡される猫は子猫が多いため、子猫を対象としているが、ワクチン代としても支出しているため、成猫も対象となっています。

議事（3）関係機関からの情報提供について

【G委員】

国中6消防本部において、令和8年4月1日から119番については、消防司令本部に一元化して受けている。通報は、住所を詳細に教えていただければ、スムーズに現着できるのでご協力をお願いしたい。

議事（4）その他

【事務局】

（その他について説明）

（質疑なし）

以 上